



市川市営住宅の現状と深刻な課題

現在、市川市の市営住宅では以下のような現状と課題を抱えています。

- ・市川市には昭和43年から平成12年に建設された24団地1982戸が存在
- ・本年度の空家入居申込は364件で平均年齢は46歳
- ・世帯別では単身世帯(179件)が最多
- ・2026年1月末時点で19名の単身高齢者の孤独死が発生

質問 空き部屋の修繕遅れの要因と予算確保について

老朽化が進む公営住宅において、住人が退去した部屋の修繕が遅れている自治体があるが、本市における修繕遅れの現状と要因、今後の修繕予算の確保について伺う。

答弁

修繕業者の入札自体は適切に行っているが、施設の老朽化に伴う漏水など、ライフラインに関わる緊急・突発的な修繕を優先的に行う必要があるため、空き部屋の修繕に時間がかかっている。今後も適切な予算の確保に努めていく。

質問 単身高齢者の孤独死を防ぐ見守り対策について

入居申し込みにおいて単身世帯が最多となる中、単身高齢者の孤独死を防ぐための具体的な見守り対策や市としての対応について伺う。

答弁

孤独死の対策として、入居時などに地域の高齢者サポートセンターを紹介し、配食サービスなどの見守りや、生活に対する福祉サービスへつなげるための取り組みを行っている。

私の考え

建物の修繕・維持管理はもちろん急務ですが、私が何より危惧しているのは、今年度19名という「孤独死」の現実です。
ただ「部屋を貸して終わり」の行政であってはなりません。
人と人がつながる温かいサポート体制を確立し、安心して住み続けられる市営住宅へ変えていく必要があります。引き続き取り組んで参ります。

行政に関するお困りごとなどはお気軽にお声がけ下さい!

〒272-0023 千葉県市川市南八幡5-7-9-205

☎ 090-8855-4477 ✉ info@sawadaakihito.com

沢田あきひと

さわだ



- ◆市川市常任委員会 健康福祉委員会 副委員長
- ◆東京外郭環状道路に関連する特別委員会 委員



おむつ交換スペースの環境改善

質問 施設ごとの設備格差と衛生面の改善を

本庁舎の授乳室が整っている一方、動植物園や公民館などではプライバシーへの配慮や衛生面に課題が残っている。
おむつ専用ごみ箱や調乳用給湯器の設置など、既存施設の早急な環境改善と、適切な清掃の徹底を求める。
また、「赤ちゃんの駅」のより分かりやすい周知について、市の見解を伺う。

答弁

動植物園では2026年12月のトイレ改修に伴い、調乳用給湯器を備えた授乳室を整備する。既存の授乳室についても、委託業者による定期清掃や交換用タオルの用意、消毒液の設置など衛生面に配慮していく。
「赤ちゃんの駅」の周知方法についても、利用者の意見を伺いながら使いやすいものに見直していく。

私の考え

急なおむつ替えや授乳に迫られる子育て世代にとって、設備の使いやすさや清潔さは非常に重要です。
一部の新しい施設だけでなく、市内どこでも気兼ねなく子どもとお出かけできる環境が欠かせません。
子育てしやすい町・選ばれる市川市の実現に向け、実用的なインフラ整備を力強く推進してまいります。



出典:市川市動植物園公式HP

市川市議会での沢田あきひとの一般質問

おむつ交換スペースの改善や家族介護者への支援、全世代に広がるひきこもり対策など、市民の皆様のリアルな声に寄り添った福祉の充実について質問しました。同時に、老朽化が進む市営住宅における単身高齢者の「孤独死」の問題についても取り上げました。いずれも、これからの市川市にとって重要な課題です。

ひきこもり支援の充実を求める

ご存じですか?全国に約146万人「ひきこもり」の実態

現在、内閣府の調査で全国の「ひきこもり」状態にある人は推計約146万人に上ると発表されています。これは若者だけの問題ではなく、中高年の孤立(8050問題)など、全世代に広がる深刻な社会問題です。

質問 全世代に広がる社会的孤立の課題

内閣府の調査で全国に推計約146万人いるとされる「ひきこもり」の実態は、全世代に広がる深刻な社会的孤立の課題となっている。本市における相談窓口など支援体制の拡充と、誰もが孤立しない地域社会を実現するための、市独自の「ひきこもり支援に関する条例」の制定について、市の見解を伺う。

答弁

年齢に関わらず、本人や家族がどこに相談しても専門の支援につながるよう、相談体制のワンストップ化(窓口の一本化)をさらに進めていく。また、市独自の条例制定についても、誰もが孤立せず安心して暮らせる地域づくりを目指し、他市の先進的な事例を研究しながら前向きに検討を進めていく。

私の考え

ひきこもりは決して「甘え」や「自己責任」ではありません。病気や人間関係、職場での挫折など、誰にでも起こり得る問題です。だからこそ、ご家族だけで抱え込ませない仕組み(セーフティネット)が必要です。ただ窓口で相談を待つだけでなく、困っているご家庭にこちらからアウトリーチ(訪問・声かけ)ができるような血の通った福祉を実現するため、支援条例の早期制定を力強く推進してまいります!誰もが社会とのつながりを感じ、安心して自分らしく生きていける「誰ひとり取り残さない市川市」の実現へ。私はこれからも、現場のリアルな声に一番近くで寄り添い、議会で声を上げ続けます。

「家族介護」の負担を減らす独自の支援策

ご存じですか? 市川市の『家族介護』お助け制度

家族介護慰労金



同居のご家族に

年額 **10** 万円
を支給

大人用紙おむつ給付



紙おむつ代等を

月額上限 **6** 千円
助成

住宅改造費助成



介護保険枠に加え

さらに最大 **20** 万円
を市が補助

※要件あり 詳細は担当課へ

質問 家族を直接支援する独自の取り組みについて

終わりの見えない在宅介護において、無償で介護を担うご家族の負担は計り知れない。

要介護者本人だけでなく、介護するご家族を直接支援する本市独自の事業(慰労金や紙おむつ給付、見守り通報装置など)の現状と今後の周知について伺う。

答弁

ご家族の経済的・精神的負担を減らすため、慰労金や紙おむつ給付(昨年度は月平均約1,036名に支給)を実施している。そのほか、緊急時にガードマンが駆けつける見守り装置の貸与や、住宅改修費への上乗せ補助などを行っており、今後もSNS等を活用し制度の周知に努めていく。

私の考え

24時間、休みなく続くのが在宅介護の現実です。ご家族の献身的な愛情に頼り切るのではなく、行政がしっかりと伴走しなければ「介護疲れ」は防げません。市川市には慰労金や紙おむつ給付など独自の支援策がありますが、情報が届いていなければ意味がありません。私は、頑張るご家族がこれ以上無理を重ねる前に、市からの支援が確実に手元へ届くような「プッシュ型」の仕組みづくりを議会から強く訴えていきます!